

【私の意見】日本の本格的資源外交の幕開けにエール！（7月2日 HP 版）

針山日出夫 中村民平

1. 概要

高市政権の資源外交が凄まじい。今、第二次世界大戦後の日本外交史の中で、圧倒的に濃密な資源外交が展開されている。日本の本格的な資源外交の幕開けと言っても良い。この史上稀にみる精力的・積極的な外交の主な戦略的意図は ①エネルギー資源・重要鉱物資源の安定確保 ②「開かれたインド太平洋構想」の展開によるシーレーンの航行安全確保、③同志国によるサプライチェーン制度の合意形成である。

凄まじい外交努力の具体的成果が結実するには今暫く時間がかかるだろう。以下に、この高市政権の外交努力を突き動かしている内外諸要因について検討する。

2. 至近での外交実績：（出典：外務省 HP より抜粋）

2026年3月～6月末日までの外交活動実績は、主な対面首脳会談回数が17か国・17回、主な電話首脳会議回数が20回である。（詳しくは末尾に時系列リスト掲載。）この様な超過密日程での高市外交を支えているのは、首相自身が外交はトップのリーダーシップによるものとの信念を強く有していることは勿論のこと、以下のような有能で研ぎ澄まされた外交センス・政策錬磨の資質に富んだ裏方がサポートしているからである。裏方も大変だろうが、会談前に資料を丹念に読み込み事前準備に余念が無い首相の日常業務も大変と推察する。

<高市政権の外交活動を支える裏方達>

資源外交を裏で支える主要人物には、メディア情報を参考にすると、第2次安倍政権を支えた経産省出身者や、外務省のベテラン人脈が活躍する。これらの裏方は経済・資源調達の対中依存からの脱却とサプライチェーンの強靱化を目指し、調達先の多角化に向けた実務的な政策調整を担っている。政策の立案・遂行を担う主要人物は以下の通りと見做されている。

□ 官邸の経済・外交中枢の裏方

- ・ 今井尚哉（内閣官房参与）：安倍政権時代の首相秘書官（政務）を務め、政権の中核として外交やエネルギー政策（原発再稼働など）に多大な影響力を持つ。
- ・ 飯田祐二（首相秘書官）：前経済産業事務次官。筆頭格の政務秘書官として、高市首相が掲げる成長戦略や重要鉱物確保などの実体的に司令塔役を担っている。

□ 外務省および安全保障担当

- ・ 市川恵一（国家安全保障局長）：外務省出身。経済安全保障を軸とした同志国との協力枠組みや対米外交の交渉実務を仕切っている。今年3月の日米首脳会談の裏方。
- ・ 山田重夫（駐米大使）：外務大臣・茂木敏充氏の強い影響下にあるとされ、日米間の交渉や外交調整を担っている。

3. 高市政権の本格的資源外交を突き動かすもの

高市首相は就任以来数々のインパクトあるメッセージを発信している。首相の政治語録は、強力な国家運営・経済への執念、危機管理への強い信念を反映している。代表的な発言は以下の

通りであり、言葉だけでなく矢継ぎ早の戦略的政策目標を取り纏め世界が注目している。

- ✔ 「強い日本・強い経済の実現」
- ✔ 「世界のど真ん中で咲き誇る日本」
- ✔ 「守るだけの政治に希望は生まれない。未来は与えられるものではなく、自らの手で切り拓くもの」
- ✔ 「官民の力を信じ、責任ある積極財政の考え方のもと戦略的に財政出動を行い、課題を希望に変えて強い経済を作る」

上記の如き国家観・経済・財政についての語録を参考にして、最近の国際情勢やエネルギー情勢・重要鉱物の安定確保・石油由来製品調達問題などから高市政権を本格的資源外交に突き動かしている主な要因を以下の通り整理してみた。（順不同）

- 日本としての長期を見据えた資源調達の多様化、同志国とのサプライチェーン構築
 - 足下のエネルギー安定確保に係わる喫緊課題への対応
 - 2050年の先のエネルギー安定供給構造構築のための戦略展開
（ホルムズ海峡の通航安全が復旧しても地政学リスクを睨んだ長期戦略が必要との認識）
- 中国の日本に対する威圧的・非友好的外交姿勢
 - 中国の力による現状変更への政治的野心に対する強い懸念
 - 中国による重要鉱物の輸出規制に対する不信感
 - 中国の経済政策による外交的威圧に対する不快感
（日中は建前として戦略的互惠関係を基軸とするも、今は耐えるときとの認識）
- トランプ政権との同盟国としての苦渋を抑制した協調姿勢
 - 日本の安全保障環境を勘案した日米一枚岩での抑止力への期待（台湾有事想定）
 - 独善的で自国保護主義に奔走する米国の関税政策への追随
 - 低迷が著しい米国内産業政策への協調（鉄鋼、重要鉱物精製、原子力、火力）
- 中東発エネルギー危機と関連物価の高騰
 - ホルムズ海峡・シーレーン安全航行に向けての米・中東・EU・アジア諸国との連携
 - 中東依存度の高いアジア諸国とのエネルギー確保に係わる互惠関係の深化模索
 - 石油由来製品の安定確保と国内流通確保

4. 纏め

日本の資源外交の本格的幕開けの時が到来した。我が国の長期エネルギー戦略の新しい希望だ。ホルムズ海峡封鎖によるエネルギー危機でどの国もエネルギー資源確保に奔走し、各国の利害は必ずしも一致していない。なり振り構わずロシアにすり寄る国も散見され、資源外交の成果を短時間で結実させるのは容易でないと覚悟する必要があるだろう。

日本は国際社会での国家としての存在感と信任を外交の要諦としつつ、持ち前の技術力・経済力・外交力・を総動員して同志国との基盤的な互惠関係を築き上げることが生命線と言える。安定したエネルギー無くして国家運営・国家の発展はない。高市政権は国民の圧倒的支持に甘えること無く政策を磨き日本と世界を牽引して欲しい。

以上

参考【日本の至近の外交実績:外務省 HP より抜粋】

<令和 8 年 6 月>

- 高市総理の英国・イタリア訪問及び G7 エビアン・サミット出席(6 月 13 日～18 日)
日伊首脳会談及びワーキング・ランチ 日英首脳会議及びワーキング・ランチ
- 日・ラオス首脳会談
- 日・マレーシア首脳会談及び昼食会
- 高市総理による世界島嶼国海洋会議出席
- 日・オランダ首脳電話会談
- 日・イラン首脳電話会談

<令和 8 年 5 月>

- 日・フィリピン首脳会談及び夕食会
- 高市総理のアフリカデー祝賀会への出席について(結果概要)
- 日・アルバニア首脳会談
- 日韓首脳会談
- 高市総理とグテーレス国連事務総長との会談
- 日米首脳電話会談
- 高市総理のベトナム及びオーストラリア訪問(令和 8 年 5 月 1 日～5 日)
アルバニージー首相主催日豪首脳夕食会
高市総理の叙勲伝達式及びフン首相主催晩餐会出席
自由で開かれたインド太平洋(FOIP)の進化
ラム・ベトナム共産党書記長兼国家主席との日ベトナム首脳会談及び昼食会
フン首相との日・ベトナム首脳会談

<令和 8 年 4 月>

- 日・イラン首脳電話会談
- 日・エジプト首脳電話会談
- 日・サウジアラビア首脳電話会談
- 高市総理とミラトビッチ・モンテネグロ大統領との会談
- 日・ニュージーランド首脳電話会談
- 日・カタール首脳電話会談
- 日・メキシコ首脳電話会談
- エネルギー強靱化に関する AZEC+ オンライン首脳会合の開催
- 日・ポーランド首脳会談及びワーキング・ランチ
- 日・オマーン首脳電話会談
- 日・パキスタン首脳電話会談
- 日・ベトナム首脳電話会談

- 日・イラン首脳電話会談
- 日・アラブ首長国連邦(UAE)首脳電話会談
- 日仏首脳会談及びワーキング・ディナー

<令和8年3月>

- 日・インドネシア首脳会談
- ファティ・ビロル国際エネルギー機関(IEA)事務局長による高市総理大臣表敬
- 日・フィリピン首脳電話会談
- 日・マレーシア首脳電話会談
- 日・マーシャル首脳電話会談
- 高市総理の米国訪問・日米首脳会談(令和8年3月18日~21日)
- 日・シンガポール首脳会談
- 日・ブータン首脳会談
- 日・カナダ首脳会議
- 日独首脳電話会談

以上